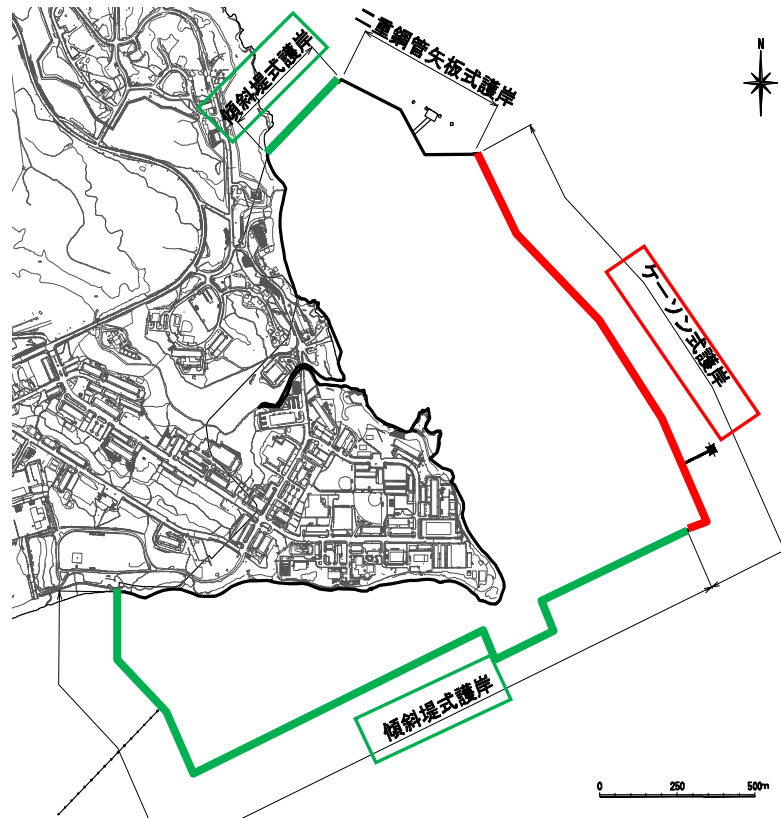


# 生物の生息・生育環境を改善する 護岸構造等について

平成29年7月

沖縄防衛局

- 環境影響評価書において、「サンゴ類が着生しやすくなるようにケーソンなどの設計と工法を工夫して、代償措置として当該範囲にある構造を工夫し、影響を少しでも軽減する」旨を記載。
- 対象施設の範囲は、環境影響評価書と同様とし、図1に示すとおりである。
- ケーソン式護岸は、現在、実施設計中であることから、設計と工法の工夫については、実施設計が了した段階において報告することとしたい。



※対象施設：「ケーソン式護岸」及び「傾斜堤式護岸」

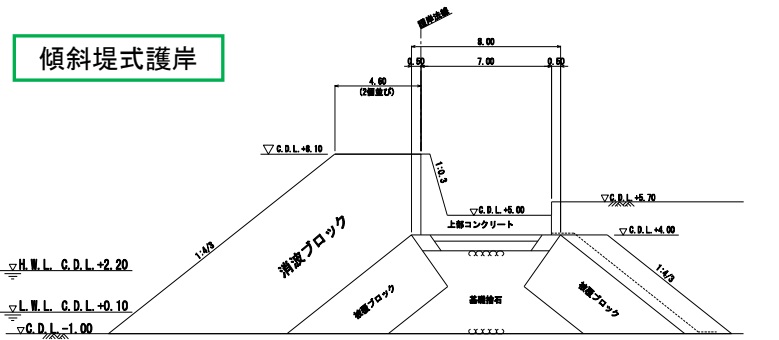
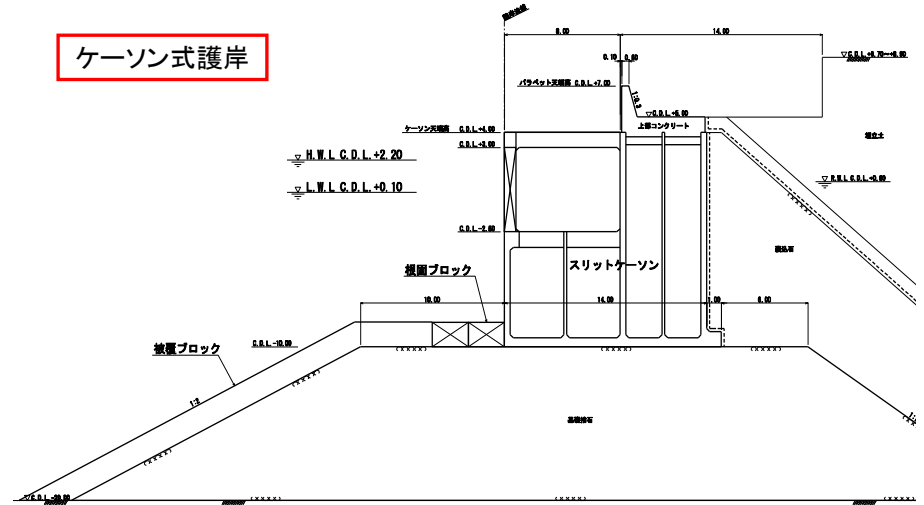


図1:対象施設及び範囲

- 傾斜堤式護岸の消波ブロックの工夫を検討した結果、他の事例において消波ブロックのコンクリート面に凹凸加工等(図3)を施し、サンゴ類が着生した実績(図4)が確認されていることから、他の事例を参考にしつつ、消波ブロックの採用・設置を行うこととしたい。
- また、サンゴは干出ししない水深帯に生息することから、傾斜堤式護岸に設置する、コンクリート面に凹凸加工等を施した消波ブロックは、図2のとおり、L. W. L以下の前面側に設置することとしたい。

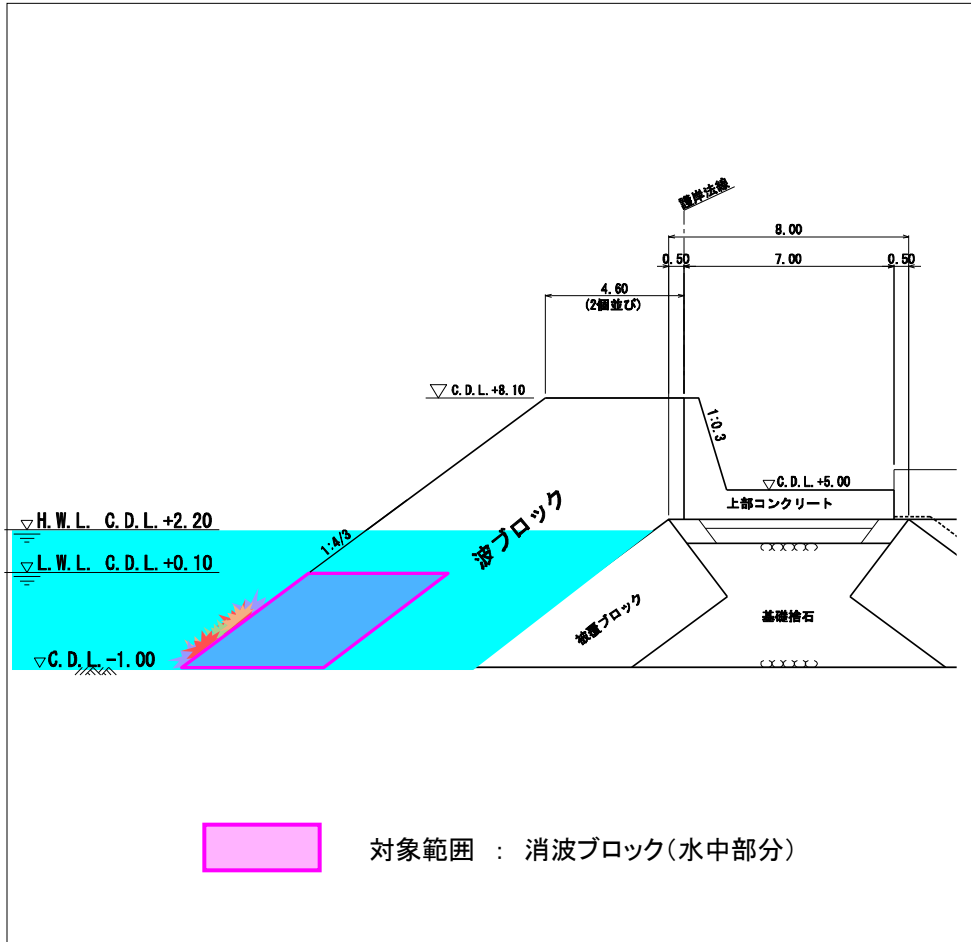


図2: 傾斜堤式護岸(イメージ)

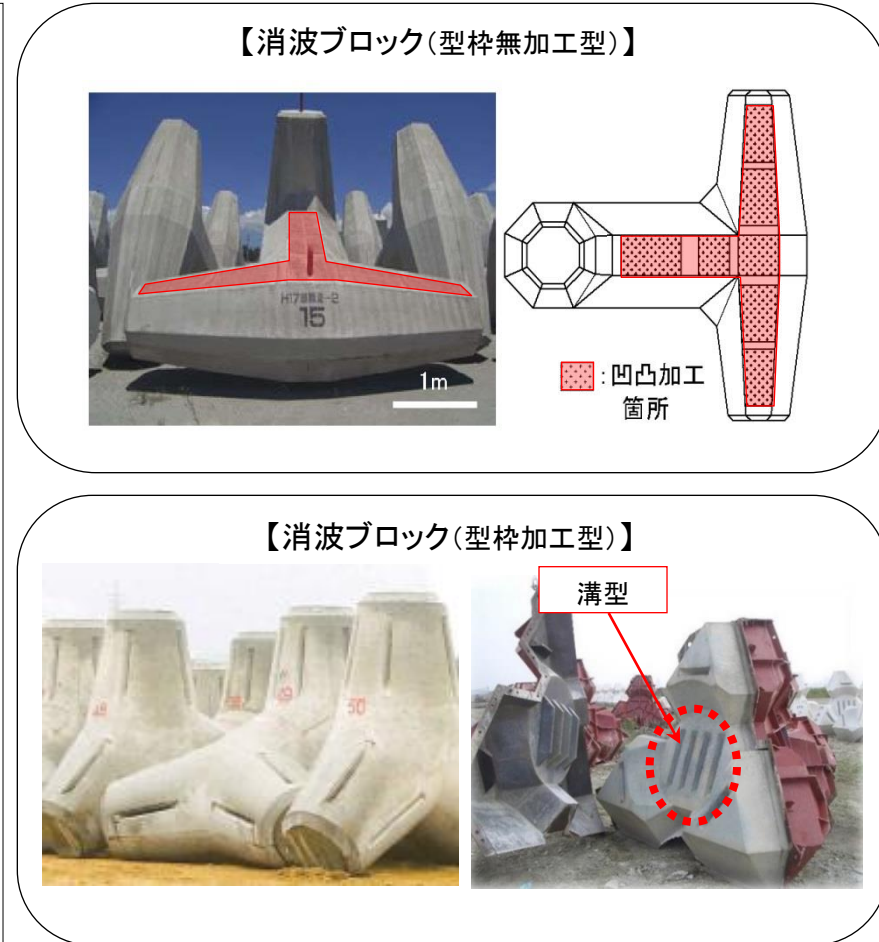


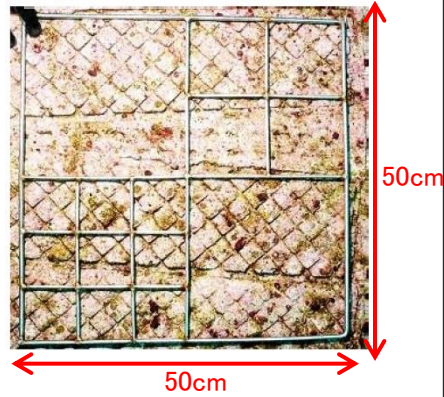
図3: 環境再生技術の実施例



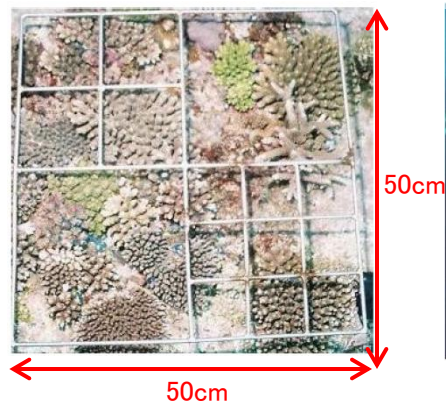
【凹凸加工ブロック】



【設置直後】



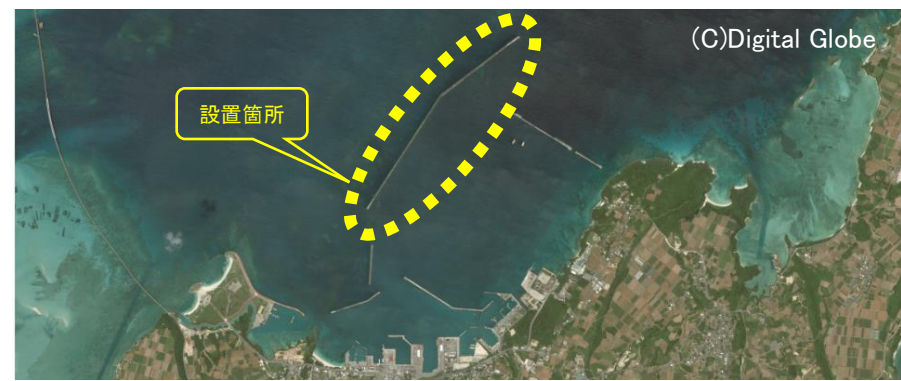
【設置後7年目】



【設置後8年目(全景)】



図4: 那覇港の事例(写真: 沖縄総合事務局提供)



【凹凸加工根固ブロック】



【サンゴ類(キクメイシ科)の付着状況】



【モニタリング調査結果】

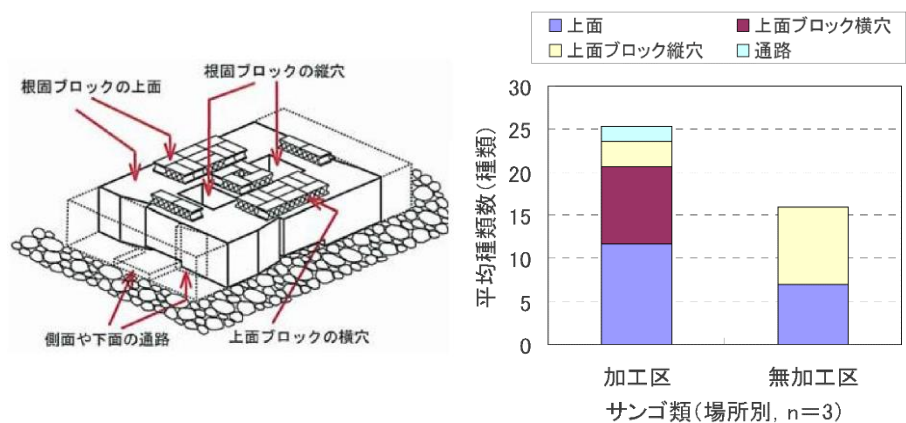


図5: 平良港の事例(資料: 沖縄総合事務局提供)